平成２４年度

学力向上プラン

江戸川区立清新第二中学校

させてみる

校長　武田　信樹

最近の月刊誌に「今の子どもたちは頑張らない。目標に向かって努力する人が減ってきている。努力しなくても生きていけそうな社会風潮がある」と書かれていました。それはどうしてでしょうか。その理由の一つに、大学全入時代があると思います。大学名を考えなければ全員が大学に入学できる時代です。ある調査で、大学に入学した１年生の中で高校時代に「ほとんど勉強をしなかった」と答えた学生が４割もいたそうです。大学生の就職難が叫ばれている時勢に、このような学生が卒業後どのような社会生活を送るのでしょうか。

しかしこのような状況は大学生や高校生だけに言えることではありません。すでに中学生にも当てはまると考えています。鞄の中に教科書やノートを入れてその重みを感じながら学校に登校する。この登校という意義自体が薄れてきています。ではどうすれば学習への意欲をもたせることができるでしょうか。

国立教育政策研究所による小中学生を対象にした「どうすれば勉強をしたくなるか」という質問紙調査に対し、上位項目として次のような結果が報告されています。

①先生に褒めてもらう　②先生の教え方が分かりやすい　③よきライバルをもつ。④就きたい職業がはっきりする

全くそのとおりだと思います。しかし、私が教師になる以前から言われていたことのような気がします。学校では依然としてこのようなことが達成できていないということでしょうか。目標に準拠した分かりやすい授業を行うための指導法の工夫、自分の将来像をしっかり描きその実現に向けて取り組むキャリア教育等、学校は一年中このことに取り組んでいるのではないでしょうか。それでも結果として、望まれる成果が出ていないということなのでしょう。何十年といろいろと手法を変えて教育施策を打ち出してきてもその効果があまり出ていないのが現状です。そこに根本の課題があるような気がします。様々な施策の意図が十分理解されていないのか、あるいはそれ以前に何か課題があるような気がします。

それはなんでしょうか。作家の曾野綾子さんの言葉に次のようにあります。「人間は、赤ん坊から大人になるまでは、与えてもらうばかりです。受けて与えることの双方を喜びをもってできることが大人の条件です。」人に与えてもらうばかりではなく、人に与える教育を、我々大人から意識して始めなければならないということです。生徒にさせてみる教育が必要だということでしょう。まずは私たち大人の「観」を変えていくことが前提のような気がします。

平成２４年度　# 学力向上プラン［国語科］

学習指導要領に書かれている教科の目標

　国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし，国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

生徒の様子

・漢字の読み・書きについての力が不足している。また、語句の意味や使い方が理解できていないために、知識として定着しない生徒が多い。
・読む力、読解では、考えようとしたり、または、考えたとしても表現するのに時間を要する。また、一つの答えで満足してしまい、他の視点からの答えを考えようとする生徒は少ない。
・語いが少なく、想像力や発想力に欠けるため、文章による表現を苦手とする生徒が多い。

生徒につけさせたい力・能力

・意味や表現法を理解した上での漢字の読み・書きの能力
・多角的にものを見つめることのできる能力
・言語感覚、想像力、発想力が豊かであり、理論的に構成できる文章表現力

そのための具体的な手だて

・「書き順」や「間違えやすい点」などに注意させながら漢字の書き取りをさせる。語句の意味がわからないものについては意味を調べさせ、短文づくりをさせる。
・答えが一つではない発問に対しては、できる限り多くの解答を導き出せるようなワークシートを作成したり、発問を工夫したりするように心がける。
・文章表現に対する苦手意識をなくさせるため、次のような学習活動を様々な場面で取り入れる。
　①　一つの語句から連想する語句を派生させていくトレーニング
　②　自分の意見や主張に対して、複数の理由付けをするトレーニング
　③　関連性のない語句を使って作文を創作するトレーニング

・文章を書くときには、必ず事前にメモを取り、構成を考えさせる。

平成２４年度　　学力向上プラン［社会科］

学習指導要領に書かれている教科の目標

広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め，公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

生徒の様子

地理・歴史に関しては興味はあるもののが、物事のつながりを考えたり、学習を深めたりするに至らない。また、家庭学習が習慣化している生徒は少ないため知識として身に付かず、学習内容を活用する機会が少ない。

生徒につけさせたい力・能力

社会に出て通用する基礎的知識・一般常識。

一問一答のやりとりにとどまらず、資料を活用して情報を収集したり、また、それをもとに考察したりする力

多角的にじっくり考えられる力

社会のできごとや世界に関心を持つこと

そのための具体的な手だて

授業内容を精選し、重要な箇所を繰り返し指導する。

復習のための小テストを随時行う。

ヒントを出しながら、考えて答えられるよう発問を工夫する。

資料などから考え答える問題を定期考査に取り入れる。

授業の導入に時事問題に触れ、関心を持たせるようにする。また、定期考査にも出題する。

平成２４年度　# 学力向上プラン［数学科］

学習指導要領に書かれている教科の目標

数学的活動を通して，数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め，数学的な表現や処理の仕方を習得し，事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに，数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し，それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

生徒の様子

一生懸命取り組む生徒が多い。しかし、学習習慣、繰り返しの必要性が十分理解できていないため、安定した力をもつ生徒が少ない。また、解答を導き出すまでの粘りが足りない生徒が多く、考えずにあきらめてしまう。復習が足りないため同じ間違いを繰り返す。

問題文の読み違いから、見当違いな解き方をする生徒が見られる。

「仮定」の認識不足のため、「仮定」を大切にせず、「結論」（答え）のみを求めようとする。

生徒につけさせたい力・能力

・正確な計算力
・理論的な思考力
・日常生活の事象を数学的にとらえ、処理する能力

そのための具体的な手だて

・少人数授業での指導、またそれに伴う個別対応
・計算の繰り返し
・単元ごとの小テスト
・基本的な定義・定理の定着を図る発問、授業展開、板書の工夫
・定期考査前、長期休業中の質問教室や補充教室

平成２４年度　　# 学力向上プラン［理科］

学習指導要領に書かれている教科の目標

　自然の事物・現象に進んでかかわり，目的意識をもって観察，実験などを行い，科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め，科学的な見方や考え方を養う。

生徒の様子

・比較的素直な生徒が多く、発言、挙手等授業には意欲的に取り組む。しかし、これまでの学習や身に付いた知識に差が大きく、あきらめがちな生徒も見られる。
・家庭学習が不足しており、学習内容の定着と活用に差が大きい。
・実験観察の操作に不慣れである。

生徒につけさせたい力・能力

1　自然事象や現象を学ぶことへの関心・意欲
2　知識や能力を身に付け、活用する力
3　自分で考える力
4　自分で判断する力
5　自分で表現する力
6　問題を解決し、自分で道を切り開いて行く力

以上、６つの「確かな学力」をつけさせたい。

そのための具体的な手だて

1　基礎・基本の確実な定着を図る。
　・授業規律の確立
　・学習目標の明確化と丁寧な説明
　・ワークシートの活用と小テストでの振り返り
　・実験観察の技術向上のための時間の確保
　・実験レポートの提出と実験の振り返り
　・家庭学習での予習の奨励
2　基礎学力の向上を図る。
　・問題集による問題練習の自主学習
　・自由研究の奨励

平成２４年度　# 学力向上プラン［音楽科］

学習指導要領に書かれている教科の目標

　表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，音楽を愛好する心情を育てるとともに，音楽に対する感性を豊かにし，音楽活動の基礎的な能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。

生徒の様子

　女子に腹筋を使った。発声ができない生徒が多い。歌唱の実技テストでは大きな声で歌えるが、普段の授業では声が小さくなってしまう。男子は大きな声で周りをリードし、授業に積極的に取り組む生徒が各学級に数名いる。また、変声期で思うように音程のとれない生徒への指導が課題である。

生徒につけさせたい力・能力

・腹筋を使ってしっかりとした大きな声で歌える力
・他のパートの音を聞きながらの和声の感覚
・歌詞の内容を考えて、相手に伝わるように表現する力
・鑑賞による音楽文化についての理解・豊かな情操

そのための具体的な手だて

・歌唱練習では、腹筋を押しながら、力の入れ方を感じ取るように、一人一人指導をする。
・曲の中に出てくる音の取りにくい部分の和音を集中的に繰り返し、ロングトーンで練習を行う。
・歌詞の内容の解説を丁寧に行う。

平成２４年度　# 学力向上プラン［美術科］

学習指導要領に書かれている教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに，感性を豊かにし，美術の基礎的な能力を伸ばし，美術文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。

生徒の様子

子供らしくおおらかで作業の時間を楽しむ生徒が多い。その反面、表現や鑑賞の体験に差が大きく、課題の完成にていねいさを欠き、最後までじっくり取り組めない生徒も多く見られる。

生徒につけさせたい力・能力

美術を愛好し、自分なりの表現を楽しむことのできる生徒の育成
正しい道具の使い方、見通しをもった作業の段取りを考える生徒の育成
作品の良さを認め、その良さを味わう生徒の育成

そのための具体的な手だて

授業の導入部分で、見通し、段取り、道具の使い方を丁寧に指導し、毎時間の目標を持たせる。制作過程を大切にさせ、生徒個々が活動を振り返る時間を設ける。また、それができるような教材選びやワークシート等を用い、展開を工夫する。

授業の開始、道具の準備から使用した道具の後片付け等もきめ細やかに指導する。

平成２４年度　　# 学力向上プラン［保健体育科］

学習指導要領に書かれている教科の目標

心と体を一体としてとらえ，運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り，明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

生徒の様子

運動が好きで保健体育の時間を心待ちにする生徒が多い反面、運動経験が少なく苦手意識から活動が消極的になる生徒も見られる。また、勝敗や記録へのこだわりが強く、技能を分析したり、学習効果を確かめたりすることが少ない。

生徒につけさせたい力・能力

運動の楽しさや喜びを感じ、生涯にわたって運動を行いたいという資質と実践力を養い育てる。また、自己の体の仕組みや特徴を理解し、仲間との協力を通して、コミュニケーション能力を育てる。

そのための具体的な手だて

・仲間との協力を通して、お互いの動き、技術の改善点を教え合わせる。
・個々の生徒に対して、その生徒に合った理解しやすい動き、技能の身に付け方を示唆する。
・記録累積やデータの分析を授業に取り入れ、知識の活用場面とし。言語活動を促す。
・ワークシート（自己評価カード）などを用いて、授業の振り返りを行い、次の学習に生かせるようにする。

平成２４年度　# 学力向上プラン［技術科］

学習指導要領に書かれている教科の目標

　ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して，材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め，技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

生徒の様子

　全体的に作業に取り組む姿勢は良好であるが、道具類の取り扱いに慣れてない生徒が多く安全面での注意が必要である。また、学年別に見ると、1年生は小学校にない教科なので、関心が高い。2年生は、中だるみの傾向の生徒が見受けられる。３年生は、進路を意識した授業態度で取り組んでいる。

生徒につけさせたい力・能力

　生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育て、持続可能なよりよい社会生活をめざす能力を身に付けさせたい。

そのための具体的な手だて

　授業の中で基礎的・基本的な知識及び技術を教え、考えさせる場面を工夫する。

・授業展開の工夫としては

　学習題材の選定・開発、学習環境、学習評価、教材・教具、授業形態の工夫など

・考えさせる場面の工夫としては

　社会を見つめる場面の設定、課題を発見させる工夫、言語活動の充実、技術の評価場面の設定、課題解決場面の設定の工夫など

　以上のような工夫をし、持続可能なよりよい社会・生活をめざす生徒を育成する。

平成２４年度　　学力向上プラン［家庭科］

学習指導要領に書かれている教科の目標

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して，生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，家庭の機能について理解を深め，これからの生活を展望して，課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

生徒の様子

家庭生活の衣・食・住において保護者の手が行き届き、実践・体験が乏しい生徒がいる。一方で、自立を必要とし自分なりの方法で衣・食・住の生活を営んでいる生徒もかなりいる。また、兄弟が多くいる家庭もあり、幼児の接し方に慣れている生徒も多い。

生徒につけさせたい力・能力

衣・食・住の基礎的・基本的な知識を正しく教え、実践させ、自立したよりよい家庭生活を営もうとする意欲を持った生徒を育てたい。

また、家族の一員として、家族や地域の人々とよりよい関係を築き、円満な家庭生活を営もうとする態度を養いたい。

そのための具体的な手だて

・作品の制作を通して、手縫い、ミシン縫いの基礎を身に付け、自分の服の簡単な補修ができるようにする。
・学習で得た知識を生かして、自分や家族の衣類を洗濯機を使って洗濯できるようにする宿題を課す。
・作品の制作を通して、繊維素材に合った温度で、アイロンが掛けられるようにする。
・５大栄養素の性質がわかり、その栄養素を多く含む食品が選べるように、また、毎日の食事の際に意識するよう呼びかける。
・中学生の栄養の特性を理解し、それを考慮した１日分の献立を立てることを授業で実習する。
・住まいの安全に配慮した住まい方がわかり、家庭で実践できるようにする。
・家庭生活の学習では、ローリングプレイなどを通しておもいやりを育てる。
・１、２年生の夏休みの宿題として「家事体験レポート」を課している。
・職場体験で保育園を選択した生徒には、授業で得た知識や、言葉かけの練習が総合的に活かせる場となる。

平成２４年度　　学力向上プラン［英語科］

学習指導要領に書かれている教科の目標

外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

生徒の様子

中学校での新しい教科であることから、第１学年では意欲的に学習に取り組むが、学年が進むにつれ、苦手意識をもつようになる傾向が見られる。

ＡＬＴの授業では、これまでの学習を生かして、コミュニケーションをとろうとしている。

生徒につけさせたい力・能力

授業で学習した英語の表現を使って、実際の会話でも相手に伝える力を伸ばしていきたい。また同時に、正しい英文を書く能力を高め、自分の考えを英語で書ける力もつけさせたい。

そのための具体的な手だて

教科書で学習した新しい表現を、場面を変えた設定の中で活用できるような練習を取り入れる。また ALT が来校した時に、英語表現を定着させるために、会話練習を重ね確認していく。

同時に、正しい文章で「情報を正しく伝える」ことから「自分の意見を英文で表現する」段階まで力をつけさせるために、単元ごとの内容について、自分の考えを書かせる時間、発表する時間を多く設けるようにする。

平成２４年度　　学力向上プラン［１学年］

生徒の様子

　明るく元気な生徒が多い。ほとんどの生徒が部活動に参加し、楽しい学校生活を送っている。ただ、幼さが残り、ふざけからいさかいに発展することが多く、集団としての成長が望まれる。

　授業態度はおおむね良好ではあるが、発言や発表のルール等、授業規律の確立に必要性を感じる。

　学力に関しては文章を書く習慣がついている生徒が多い反面、カタカナの表記に問題がある生徒や漢字の誤記が目立つ生徒が見られる。また、少数ではあるがくり上がり、くり下がりのある計算、分数の理解が十分でない生徒が見られる。

　学校に協力的な保護者が多く、学校、学年の取組に好意的である。学校行事への参加、参観も多い。

生徒につけさせたい力・能力

・基礎・基本となる、「読む」「書く」「計算」能力
・学習習慣、学習規律
・自分なりに答えを導き出す工夫　また、それを実践する力

そのための具体的な手だて

・基本的な生活習慣の確立を目指す指導
　（あいさつ、時間、言葉遣い、身だしなみ）
・朝読書、読書活動を通じての表現能力の育成
・給食指導、美化指導の充実（学年全員であたる。）
・家庭学習ノートの取組　学習方法の提案
・週末テストの実施とそのまとめコンテストの実施
・放課後、定期考査前の補充教室・質問教室の実施
・総合的な学習の時間の計画的な実施と発表形態の工夫
・生徒企画による活動の充実・リーダーの育成
　（学年行事、学年集会、総合的な学習）

平成２４年度　# 学力向上プラン［２学年］

生徒の様子

１年次に比べ、考えて行動する場面が増えてきているが、表現することが苦手な生徒が多く、主体的な活動に結びつかない。

学習に対する姿勢に差が見られ、その傾向は授業のみならず、学校生活全般に及び、支援の必要な生徒が見られる。

行事や部活動には積極的に参加する生徒が多い。保護者は学校に理解があり、学年、学校行事への参加も多い。

生徒につけさせたい力・能力

・授業を大切にし、あきらめずに根気よく学ぶ生徒
・ＴＰＯをわきまえた言動、行動のとれる生徒
・自分で課題を見つけ、その課題解決に向けて努力できる生徒
・社会の一員である意識をもち、それを生活の中で実践できる生徒

そのための具体的な手だて

・授業規律確立のために、学年教員全員で指導にあたる。また、情報交換を密にし、問題行動の早期発見に努める。
・国語、数学、英語ドリル学習を行い、学力向上の一助とする。また、その結果を生徒の有能感につなげる指導を行う。
・定期考査前の学習をサポートする補充教室を実施する。また、普段の授業での課題の提出状況を把握し、場合によっては補充教室を拡大する。
・学級活動、道徳等に時間を中心に、集団の一員としての意識をもたせる活動を行う。

平成２４年度　　学力向上プラン［３学年］

生徒の様子

　力がありながら、発言したり、前面に出るのをためらったりする生徒が多く、全体としておとなしい印象を与える。
　基本的な生活習慣や学習に対する姿勢は、学年進行と共に落ち着きを見せ、特に学習への姿勢は教科担任と学年教員の同一歩調による指導で改善されつつある。各種検定に挑戦したり、補充教室を活用したりする生徒も多くなり、進路選択に向けて意識が変わった生徒が多くなっている。

生徒につけさせたい力・能力

・基礎的・基本的な読み・書き能力、計算力、社会・理解的事象の理解、英文法・英単語などを反復学習を通して身に付けさせたい。
・授業に集中し、話を理解し、きちんとノートをとる。また、期限を守って提出物を提出する姿勢を身に付けさせたい。
・進路選択を前に、目標をもち、それを実現するための努力を惜しまない姿勢を身に付けさせたい。

そのための具体的な手だて

・基礎学力の充実を目指した補充学習
　定期考査前の自主学習（質問）教室の実施。個別対応。
　夏休みの補充教室の実施。
　小テストの実施
・教員間における情報の共有
・情報の提供ときめ細やかな指導
・保護者との連携